

令和5年度 徳島市地域ケア推進会議 議事要旨

1 日時

令和6年3月27日（月）午後7時から

2 場所

徳島市医師会館 4階会議室（徳島県徳島市幸町3丁目77番地）

3 概要

議事

(1)取組報告

地域包括ケア推進に向けた令和5年度を取組と方向性

意見交換で出た意見

- ・ 委員：津田地区で実施している体操は通いの場介護予防活動支援事業補助金の対象にはならないか。
- ・ 事務局：月1回以上で1回当たり90分以上の活動をしている団体に、補助金を交付できるかと思うが、他にも細かい条件があるので、また健康長寿課まで相談いただければ。
- ・ 委員：意見ではなく報告であるが、今年度から徳島市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターを1名から4名に増員し、コロナ禍では地域に行くことができなかったが、今年度は地域へ行き話を聞くことができた。その中で地域住民の課題を汲み取り、12月25日から27日までこどもの居場所「こころんほーむ」を開催し、学生から高齢者まで幅広い年齢層の方にボランティアとして手伝っていただいた。次の夏休みも開催を検討している。また制服リユース事業も新規の企画で、2月から募集しているが、実績といたしましては、例えばブレザーは寄付数が118着であった。次年度以降対象を高校生から中学校へと拡大することや、回収ボックスの設置場所を増やすことも検討している。

(2)議題

地域課題からの提案

介護予防・生活支援（総合事業）住民主体サービスBの創設について

意見交換で出た意見

- ・ 委員：住民主体の通いの場介護予防活動支援事業補助金とサービスBの違いは何か。

- ・ 事務局：サービス B はサービスを利用するためにはケアプランに位置づけられないといけない。
- ・ 委員：通いの場として、きちっとしたイベントでなくとも、井戸端会議のような場所が重要だと思うので、そのような場所を作っていきたいなというふうに考えている。また、ユニバーサルカフェと言われている、障害者から高齢者、若者まで全ての人が集まることのできる居場所が必要であり、行政の方からのアドバイス指摘等々ただけたらなと思っている。
- ・ 委員：高齢者が通いの場へ参加するだけで約 20 万円介護の費用が削減できるので、もっと通いの場への補助金額の増額を検討していただきたい。
- ・ 委員：8050 の課題もあり、介護する人への教育も重要である。
- ・ 委員：コロナ前はイベントなどで健康づくりの相談会などを実施していた。今後開催し、気軽に相談できる場を作っていきたい。
- ・ 委員：津田地区では毎年 4 月に六右衛門祭りを開催しており、27 回目で来場者もととても多い。男性も手伝いしてもらっており、地域活性化につながっている。
- ・ 委員：町内会との連携が重要になってくると思うので、町内会を活性化させていく必要がある。
- ・ 委員：地域包括ケアシステムとためには、日本人、外国人、高齢者、障害者様々な人が共生していく社会が、不安のない社会につながると思う。
- ・ 委員：サービス B について、そういったサービスがはじまるのであれば、参画を検討したいが、準備等もあるので、制度概要を早めに提示してほしい。
- ・ 委員：サービス B を早く開始してほしい。子供の居場所づくりとして駄菓子屋を開始して 1 年になるが、次はお母さんが気軽に立ち寄れるような場所を作っていきたい。地域の高齢者にも手伝ってもらえるよう声掛けはしている。
- ・ 委員：地域では防災や、認知症への関心が高いと思う。しかしその活動の財源としては徳島市社会福祉協議会も補助金があるが、原資が共同募金だけでは不足している。また、地域内の横の連携を強化していく必要があると感じている。成功している事例、ノウハウを情報共有していけばよい。
- ・ 委員：認知症の薬を飲み忘れる人もいて、病院や薬局まで来られない人もいるので、そういった人が医療をリタイヤしないような移動支援が必要である。
- ・ 委員：地域で通いの場を立ち上げに関わった経験があり、その通いの場は立ち上げから 10 年たっている。継続の秘訣は、住民主体で、地域の人が主体的に活動したことである。
- ・ 委員：施設が立っている町内会の総会に施設の提供していたことがある。行政から防災等色々な情報を地域に提供してほしい。
- ・ 委員：日本は超過死亡数が多くなっており、コロナ禍において 3 蜜をさけることによる高齢者の活動量の減少により、死亡者数が増えたのではないかと考えられている。高齢者が外出し、他人と交流し、活動が活発になること重要である。

以 上